

「学校の森」取組み内容についてのアンケート回答用紙

学校名	※都道府県から記載ください 滋賀県蒲生郡日野町立桜谷小学校
担当者名	古澤 弘

1、定期的に活用している森の有無

有り、 無し

2、1が有りの場合の森の所在地

- 1) 学校敷地内／隣接地、 2) 徒歩 30 分以内、
 3) 徒歩圏外
(自転車 30 分以内、車で 10 分以内、車で 30 分以内、車で 30 分超)

3、権利関係

- 1) 学校所有
2) 分収造林契約 (契約期間:)
3) 悠々の森協定を締結して国有林を活用
 4) 県/市町村/財産区有林を活用 (活用の根拠契約 有り/無し/不明)
5) 私有林を活用 (森林整備義務を伴う契約締結、その他、不明)
6) 公共の施設を使用 (具体的には、)
7) 不明
8) その他 ()

4、取組期間

- 1) 震災前から (開始時期 西暦 1982 年)
 2) 震災後から (開始時期 西暦 年)

5、授業時間か否か

- 1) 授業時間 (通常の授業、 校外学習)
 2) 授業時間以外 (休み時間、 放課後、 休日)

【以下授業で活用している学校への質問】

6-1、授業科目（重複あり）

総合学習、生活、理科、社会、国語、道徳、図工、その他（ ）

7-1、各学年の年間授業時間数

1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
2	6	8	8	8	8	40

8-1、実施する季節（重複あり）

1) 春、夏、秋、冬
2) 学年による（ ）
3) 年一回、年複数回

9-1、授業で森を活用する視点について

- 1) 知識ではなく体験で初めて得られることに意義
具体的には、（樹木、生物を具体的に観察できる）
- 2) 総合学習のテーマとして森の活用が相応しいと判断
具体的には、（森林、川、琵琶湖の環境を総合的に考えることができる）
- 3) 総合学習以外にも学習効果が得られる科目がある
具体的には、（生活科や理科における観察により、授業内容を深く理解することができる。図工で自然木を使った工作を実施している。）
- 4) その他（ ）

10-1、実施プログラムの内容／視点

- 1) 震災を受けて防災・減災の視点を含めている、いない
- 2) 実施プログラムの計画書等がある、ない
ある場合はコピーを同封して下さい。

【以下授業外で活用している学校への質問】

6-2、授業での活用を行っていない理由

- 1) 森での活動を授業に取り込む必要を特段感じていない、
- 2) 森での活動を授業に取り込みたいが現時点では障害がある
- 3) その他 ()

7-2、6-2で2)と回答した学校へ 授業で活用する上での障害について

- 1) 各教科で習得すべき単元数が増加し、余裕が無い
- 2) 総合学習に相応しいテーマが森の活用以外に別にある
- 3) 森はあるが整備されていないので利用できない
- 4) 先生だけでは指導ができず、外部の指導者もいない
- 5) 森の整備にはお金がかかるので、継続して活用することが困難
- 6) その他 ()

【以下全ての学校への質問】

11、指導者(重複あり)

- 1) 教師のみ
- 2) NPO等の学外団体
- 3) 教師と学外団体の協同
- 4) その他 ()

12、学校以外の運営指導協力者がおられる場合

具体的には (HOTけん桜谷隊：ボランティア団体)

13、年間運営経費 (数年に一度の森林整備費用は除く)

- 1) なし
- 2) 1万円未満
- 3) 1万円以上
- 4) 3万円以上
- 5) 5万円以上
- 6) 10万円以上 (具体的には、) 万円)

14、運営経費の支出先

- 1) 指導者謝礼
- 2) 歩道刈り払い等の毎年発生する森林整備の外注費用
- 3) 樹名板等の林内設置物の費用
- 4) 児童／生徒の森までの往復交通費
- 5) その他 ()

15、運営経費の捻出

- 1) 学校運営費で賄う
- 2) 義援金からの補助と児童の家庭から集金
- 3) PTAの寄付
- 4) 市の予算
- 5) その他 ()

16、数年に一度の大規模な森林整備費用

- 1) 発生する、発生しない
各々の理由（毎年、ボランティアの方が整備してくださっている）
- 2) 発生する場合の金額（ 万円）
- 3) その資金捻出（具体的には、 ）

17、必要な道具(重複あり)

- 1) なし
- 2) 森林整備に使う道具
- 3) 軍手
- 4) 長靴
- 5) ノコギリ、鎌
- 6) 木工関係の道具
- 7) 観察板・虫取り網・飼育ケース
- 8) その他（ ）

18、17の道具の調達

- 1) 学校で購入
- 2) 外部からの寄付
- 3) 各自家庭から持参
- 4) NPOからの借り入れ
- 5) その他（ ）

19、昨年度の活動と今年度の活動比較

- 1) 昨年度より進化
具体的には（ ）
- 2) 昨年度より後退
具体的には（ ）
- 3) 昨年度と変わらない
- 4) 今年度から開始
- 5) 昨年度のことは判らない
- 6) その他（ ）

20、来年度の活動についての展望

- 1) 今年度より進化させたい
具体的には ()
- 2) 今年度より後退する危惧あり
具体的には ()
- ③ 異動もあり来年度のことは判らない 毎年特色ある活動として続けていく
つもり
- 4) その他 ()

21、活動継続に向けた対応

- 1) 特に必要性を感じない
- 2) 必要性は感じるが対応は出来ていない
- ③ 一定対応している
☞ 具体的には、活動内容が定着している
- ① PTA を応援団に育成／学校評価での実績づくり
- ② 転入してきた先生を活動の推進役に育成
- ③ 学外の運営協力者／団体を学校経営にも参画させている
- ④ 教育委員会を応援団に育成／学校評価での実績づくり
- ⑤ 森の活用校で連携して活動の成果を普遍的なものにする
- ⑥ その他 ()

22、活動中止の危機の有無

有り、③無し

ありの場合以下のどの背景か？

- 1) 所有者との関係で森の使用が出来なくなる
- 2) 森の整備の担い手がいなくなって藪に戻ってしまう
- 3) 森の活動で事故が起きて安全管理面での問題を指摘される
- 4) 教室内での授業時間増加の要請／学力低下
- 5) その他 ()

23、活動中止の要因として考えられること

(特に無し)、想定できる

想定できる場合以下のどの背景か？

- 1) 校長交代
- 2) PTA 会長交代
- 3) 指導役の先生の異動
- 4) 協力団体の中断
- 5) 教育委員会の方針変更
- 6) 森の所有者との関係悪化
- 7) その他 ()

24、フィールドの地域開放

- 1) 学校だけで使用
- (2) 地域の人々が森林整備にも協力しており開放している
- 3) 現在公共施設を学校の森として活用している
- 4) 地域の防災拠点でもあり、開放している
- 5) その他 ()

25、森の活用についての P T A の関わり

- 1) 全面賛成
- (2) 具体的に森の活動について見守りでボランティア協力
- 3) 具体的に森の整備に協力
- 4) その他 ()
- 5) PTA は無関心

26、P T A に協力を得ている場合の具体記述

森のレストランで、調理するときのボランティアとして協力いただいている。

27、重視していること(重複あり)

- ① 木の名前を知ること森に興味を持つこと
- ② 自然の中で伸び伸びと過ごすこと
- ③ 生態系のつながりの理解
- 4) 自然は脅威にもなれば人間を守ってくれることの理解
- ⑤ 森の中で仲間と助け合うこと
- 6) 震災後の子どもたちの心のケア
- 7) 防災や減災意識の高揚
- 8) その他 ()

28、困っていること(重複あり)

- ① なし
- 2) フィールドが遠い
- 3) フィールドが整備されていない
- 4) 登る際の傾斜が急である
- 5) 指導者の協力が継続できるかどうか
- 6) その他 ()

29、自由記入欄

今後とも、PTA、学習ボランティア、地域の協力団体等と連携しながら、内容を吟味し、続けていく必要があると感じている。
--

以上アンケートに回答頂き有り難うございました。